一般社団法人 山形県介護支援専門員協会会誌

ケアマネ通信 やまがた No.31

一般社団法人 山形県介護支援専門員協会

第回通常総会報告

◆日時 令和元年6月22日(土) 午後1時30分~2時45分

◆会場 山形国際交流プラザ

令和元年度の通常総会が開催されました。以下にその 内容を報告いたします。

1.会長挨拶(佐藤裕邦会長より)

昨年度で法定研修の受託をすべて取りやめました。組織内容、事業内容の再検討をしていくことになります。一つ目は、委員会をケアマネ支援部と組織運営部の二つに分けます。ケアマネ支援部は主任ケアマネ、これから主任ケアマネを取得しようとしている人ケアマネ、更新しようとしているケアマネ等の研修講師の養成研修をしていきます。

14団体から団体推薦理事を派遣してもらっていますが、そうした専門職種との連携、さらに会員サポートの事業、これまで手を付けていない施設ケアマネの研修についても来年度は実施していきたいと思います。

二つ目は、組織運営部についてですが、現在は事務員を雇えない状況です。現状では事務局作業の円滑な推進は無理。理事だけで行うのも困難で、理事以外からの協力を得ています。事務作業の見直し、ホームページでの案内等の確認をしいただくように会員への協力を求めていかねばなりません。

三つ目は、協会の財政が逼迫しています。このままでは立ち行きません。事務所経費も含めてどうしても必要な経費はあります。

事務局員を雇用するための財源を確保するため に、会費の値上げを考えねばなりません。消費税増税 もあり、日本協会の会費5000円、山形で4000円、計9000円では大変厳しい状況である事をご理解を頂きたい。

課題を明らかにしましたが、隠さずに、皆様にお伝 えしていい方向に向けていきたいと考えます。

2.来賓挨拶

長谷川浩氏(山形県健康福祉部長長寿社会政策課課 長)より賜りました(内容略)。

3. 総会成立確認 出席 222名(内委任状180名) 定款第30条による、正会員の1/3以上の出席となり成立。

4. 議長選出

山形地区支部の大江祥子氏が選出されました。

5. 議事録署名人選出 山形地区支部の海藤美紀氏、村山澄子氏が選出され ました。

6. 議事内容

【第1号議案】 平成30年度事業報告の件 【第2号議案】 平成30年度決算の件

<監査報告> 【第3号議案】 令和元年度事業計画の件

【第4号議案】 令和元年度予算の件 【第5号議案】 理事及び監事の件

以上の議事はすべて承認されました。

7. 閉会

以上で第8回総会は終了となりました。



第8回 通常総会報告	組織運営部担当者より 5
第1回 研修会報告 2	地区支部報告 5•6•7
理事会報告 3	各専門職から(Professional Comment) ········ 7・8
新委員会組織について 4	編集後記 8

令和元年度 第1回 山形県介護支援専門員協会研修会

医療・介護・福祉のための ホワイトボード・ミーティング®

~ホワイトボードを活用した話し合いの進め方~

講師:黒田昌宏氏

社会医療法人みゆき会 みゆき会病院 理学療法士 ホワイト・ボードミーティング®認定講師

令和元年度の第1回目の研修会は、みゆき会病院の理学療法士である黒田昌宏氏を講師としてお呼びしました。サブタイトルにあるように「話し合いの進め方」という内容で、ケアマネジメントや黒田講師の職種であるリハビリテーションの領域のみではなく、広く、一般社会の中での「会議」をいかに内容を深め、実り多いものにするか、そのような会議をどのように進めたらよいか、「ファシリテート」したらよいかというものでした。

保健・医療・福祉・介護という私



たちの普段の活動でも、様々な「ミーティング」「会議」「カンファレンス」「サービス担当者会議」等々といった「話し合い」抜きには成り立たないといっても過言ではない状況だと思います。一方で、限られた時間という制約の中で「話し合い」しなければいけないというのも直面している現実だと感じます。

今回の研修会では「ホワイトボード」「質問の技カード」「発散→収束→活用のプロセス」「6つの基本会議フレーム」「ファシリテーターとサイドワーカー」という6つの特徴を持った「ホワイトボードミーティング」の認定校講師である黒田氏から、実際のワークを行いながらその方法の一端を学ばせて頂きました。

詳細な内容は山形でも毎月「ファーラ」で勉強会が開催されているとのことえすので、関心のある方はお問い合わせをしてみてください。facebookもあるとのことです。

研修会は100名近い参加者のもと、盛況のうちに終了いたしました。

理事会報告

第44回理事会(令臨時理事会)

日 時 令和元年6月22日(土) 14時15分~14時30分

場 所 山形国際交流プラザ

出席者 村山 椎名 吉田 柳谷 高橋秀 佐藤裕 菅原 佐藤温子 佐々木孝 高橋則 伊藤喜久子 高瀬 鈴木 佐藤知 番場 佐藤郁 高木 星川 青木 星 荒井 丹野 高橋 阿部 星川 村上郁子

1. 会長・副会長の選出

会長 佐藤 裕邦氏 副会長 高木 知里氏 残る1名の副会長は次回理事会にて選出することと なった。

2. 次回理事会日程

7月27日(土) 16時~ さくらんぽタントクルセンター(東根市)



第45回理事会

日 時 令和元年7月27日(土) 16時00分~17時30分

場 所 さくらんぼタントクルセンター

出席者 佐藤裕 高木 高瀬 鈴木真 佐藤知 佐藤郁 星川 青木 星 吉田 荒井 丹野 高橋 阿部 星川 村上 村山 椎名 柳谷 菅原 菅野 平

1. 副会長の選任について

佐藤知生理事が選任された。

2. 各委員会組織と事業計画について

各部・委員会の担当者が決定した。 (詳細は後日ホームページに掲載予定。)

3. 入会員の承認について

山形・村山・最上・置賜・庄内の各地区支部から報告 あり。

4. 新規入会者の承認について

次回あらためて報告予定となる。入会金・年会費の既納入者がおり、会員として扱っていることの承認が得られた。

5. その他

- ・賛助会員の勧誘について
- ・新旧理事の交流会について。
- ・定款・諸規定の会員への配布について
- ・会員サポートについて
- ・委員会の予算について
- ・「2019年度介護支援専門員講師指導者養成研修」 について

6. 次回理事会の開催について

日程 10月19日(土) 16時~ 場所 未定

新委員会組織について

今年度より、当協会の体制が大きく変更になりました。それに伴って委員会組織も新しくなりました。 組織を大きく二つの部「組織運営部」「ケアマネ支援部」に分け、それぞれに委員会を設置しました。

組織運営部

*総務委員会:会員管理と共に、会員サービスの向上や運営が円滑に進むよう規則を整備します。

また、会員拡大活動を行っていきます。

- *財務委員会:協会の経理・財務・会計を行います。
- *広報・ホームページ管理委員会:広報活動、情報発信を行います。協会ホームページの管理を行います。

また、会員拡大につながる渉外も行います。

ケアマネ支援部

- *主任ケアマネ委員会:主任ケアマネの支援を行います。 主任ケアマネを対象とした研修企画や主任ケアマネが抱える課題を調査研究を 行います。
- *講師・ファシリテーター養成研修委員会:山形県からの受託事業である「山形県 介護支援専門員講師指導者養成研修」「山形県介護支援専門員ファシリテーター (演習助言者)養成研修」の企画・運営を行います。
- *会員サポート委員会:個々のケアマネの資質向上を目指し、研修などを通じて会員をサポートします。ホームページの会員専用相談掲示板の対応を行います。

担当者は以下のようになります。

	委員会名	委員長	委員	委員	委員	委員
組織運営部 担当副会長 佐藤知生	総務	菅原麗子	吉田京子	青木和弘		
	財務	鈴木真祐美	丹野克子			
	広報 HP管理	伊藤喜久子	佐藤郁子	星川知佳子	髙橋英一	佐藤知生
	主任ケアマネ	丹野克子	平真一	村上郁子	椎名敏	
ケアマネ	講師・ファシリテーター 養成研修委員会	髙橋秀典	柳谷理恵	村山正市	吉田美智子	
支援部 担当副会長 高木知里	専門職種との連携委員会	佐藤温子	星利佳	荒井晉一	高瀬博行	星川友厚
			髙橋則好	番場一郎		
	会員サポート	髙橋英一	阿部淳士	村山正市	菅野康夫	平真一

日本協会代議員 佐藤 裕邦、佐藤 知生

日本協会部会委員(地域包括支援センター部会) 村山 正市

事務局長 竹田 征子

事務局次長 藤橋 佳代子

まだ、動き出したばかりの委員会ですが、会員の皆様の資質向上、サポートに努めさせていただきますので、 よろしくお願いいたします。 (財務委員長 鈴木真祐美)

組織運営部担当者より

担当副会長より

今年度から、組織運営部担当の副会長となった佐藤です。微力ですが協会の組織運営のために汗をかければと思います。 (副会長 佐藤知生)

財務委員会

※「新委員会組織について」にて。

(財務委員長 鈴木真祐美)

総務委員会

今年度の役員改選に伴い、総務委員長となりました菅原と申します。委員会編成が今年度から一新し、新たな態勢になっております。

総務委員会といたしましては、今後の制度改正によるケアプラン料の有料化などについて声を上げていくためにも、会長・副会長・理事等と協力しながら、会員拡大に力を入れていきたいと考えております。

現在、私の力不足と事務局体制の関係などから、入退 会の手続き等の事務作業にお時間をいただいている状 況で、皆様にはご迷惑をおかけしております。

もとより微力ではございますが、お役に立てるよう努力いたしますので、どうぞよろしくお願いいたします。

(総務委員長 菅原麗子)

広報委員会

広報委員会は「ケアマネ通信 やまがた」と「山形県介 護支援専門員の協会のホームページ」を担当しています。これからも理事会の報告や全体の研修会などをはじめ、各地区支部の活動の報告「地区支部報告」や「ProfessionalComment」専門職からのアドバイスを継続しながらみなさんに情報提供を行っていきます。

また、今回は今年度、初めての発行ということもあり、総会や理事会の報告も丁寧に取り上げております。今後のケアマネ協会の事業とともに運営に関わることも検討されています。これからも会員のみなさまと共にケアマネ協会がありますので、会員のみなさまには、紙面やホームページを通していろいろな情報発信と提供を行っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。 (広報委員長 伊藤喜久子)

※「ケアマネ支援部」は次号にて掲載させて頂きます。

地区支部報告

最上

地区支部報告

最上地区支部では、令和元年6月 21日わくわく新庄におきまして、支 部総会を開催しました。

総会にて前年度の実施報告・今年

度の計画・予算と支部役員の改正など審議され承認されました。総会後、戸沢村の『すっぺ家さ』さんのお弁当に舌鼓を打ちながら、情報交換と新しく入会していただいた会員の方と交流を図っております。

7月19日に特別養護老人ホームかつろくの里におきまして、会員限定の『第一回事例検討型研修会』を実施しています。精神疾患のある方の支援について活発な意見がでました。今後の支援に活かせる研修になったと思います。

9月14日に新庄市民プラザにおきまして、当協会の理事でもあります清幸園ケアプランセンターの村山正市理事を講師に迎え『効果的な実地指導対策 介護保険施設等に対する実地指導の標準化・効率的な運用指針について』をテーマに講演いただきました。法令をかみ砕いての説明で大変わかりやすい研修でした。

今後の予定は10月21日かつろくの里で会員限定の『第 二回事例検討型研修会』を予定しております。

置賜

地区支部報告

した。

令和元年7月13日(土)熊野大社 證 誠殿にて、総会および研修会が行われました。参加者数は会員51名、非会 員27名で総勢78名の方が参加されま

研修内容は「権利擁護」~意思決定支援について~講師は山形県介護支援専門員指導者として山形県での養成が開始された当初から数年間に渡り実務者養成研修の中心的な講師としてご尽力された、安部 久氏(あべ社会福祉士事務所 所長)でした。権利擁護の本から意



思決定支援のガイドラインについて、わかりやすくご講 義いただき、ご利用者の尊厳を守り、意思決定していた だくことの難しさに気づき、日常の支援業務においての 振り返りができた有意義な研修となりました。

福祉=普通に暮らす幸せ⇒**ふ**つうに**く**らす**し**あわせのことばが印象的でした。

庄内

庄内地区支部では、今年度の総会・ 研修会を6月7日に三川町にある菜の 花ホールにて行いました。

地区支部報告総会では、昨年度の事業報告と会計報

告、今年度の事業計画と予算案を協議し、承認されました。また、庄内地区支部役員について、2年の任期満了を迎え、改選を行い、これについてもご承認いただきました。

今年度事業計画として、研修を年3回実施(うち、1回は 庄内ケアマネジャー大会を開催)する事となり、その1回 目を総会後に行いました。

令和元年度庄内地区支部第46回研修会は、会員36名、非会員45名、計81名の皆様よりご参加いただき、盛大に行うことができました。テーマは「社会資源の効果的な活かし方~今さら聞けないケアプランのキモ~」と題し、社会福祉法人つるかめ 副理事長である、伊藤順哉氏よりご講義をいただきました。

講義の中では、特に介護保険制度改定による自立支援、 重度化防止がキーワードになってきており、その対策を 意識する事が重要だと話がありました。

当日の参加者のアンケートからは、「自立支援とは何か。悩んでいたので一つの答えを教えていただきました」、「改めて自立支援という目的に気付きました。作ればいいケアプランになってしまっていた」など、自立支援の考え方や気付きがあったようです。また、ケアマネのマネジメントの仕方を振り返り、今求められているマネジメントの方法を知り、自分の仕事を見つめ直す事ができた」、「利用者の思いや、生きてきたあゆみに寄り添い、目標志向のケアプランを作成する。施設ケアのプラン作成を行い、自立支援に向けたプランを作成したいと日々苦戦しています。もっと自信を持って自立支援に向けてプラン作成していきたいと思います」など、毎日のケアマネジメント業務の見直しや前向きなご意見がありました。

とても有意義な研修会でした。



新しい年号となり最初の村山地区 支部総会と第1回研修会が令和元年5 月12日に村山市民会館にて開催いた しました。参加者20名、委任状58名に

より平成30年度事業報告及び決算報告と2019年度の事業 計画及び予算について無事、承認されました。 続いて37名が参加した研修会では「変わりゆく看取り」 と題して北村山地区医師会会長の八鍬直医師より講演を 頂きました。

介護保険制度前の在宅医療の苦労話や在宅死や施設死 の地域の現状等、看取りをとりまく地域の環境を写真や グラフでわかりやすく説明してもらいました。

その他、看取りについて患者と医療者が情報共有をし、



共同の意思決定を持つことが大事であることや人生会議の実践にむけてなど、先進的な看取り介護の取り組みについても学ぶことができました。ご講演をして頂きありがとうございました。



山形

地区支部報告

1. 総会

2019年6月12日(水)19時~19時30 分、山形市総合福祉センター交流ホールにて開催しました。2018年度実施・

会計、・2019年度実施・会計計画について報告があり、承認されました。35名の参加でした。

2. 第1回研修会

2019年6月12日(水)19時30分~21時、総会終了後に開催しました。テーマは「ケアプランの標準化の動向、及びAIによるケアプラン作成試行事業から学ぶこと」、講師は日本介護支援専門員協会理事、茨城県介護支援専門員協会副会長の能本守康先生です。ケアマネジメントとケ

アプランに、AIが今後どのように利活用され、ケアマネ ジャー業務にどのように影響するのかについて、新しい 情報を得られました。AIは優秀だが、最終的には人と人 のつながりが重要になってくるというお話に、参加者は 納得するとともに安心しました。48名の参加でした。

3. 第2回研修会

2019年9月12日(木)19時~20時30分、山形市総合福祉セ ンター交流ホールにて「顔の見える連携強化のための多 職種交流学習会」を開催しました。これは、多職種が集 まって事例を話題に話し合い、相互理解とネットワーク を広げるという企画で、昨年度に引き続き実施したもの です。今年の呼びかけは昨年同様専門職団体14団体に加 え障害者相談支援事業所をお誘いし、また、山形市・上山 市からの後援、天童市、中山町、山辺町からの協力もいた

だきました。参加者は約120名で行政職員の方々の参加も ありました。幅広い分野からの多種多様な意見に多くの 学びを得る事ができました。



各専門職から Professional Comment 柔道整復師の立場から

職能団体としての柔道整復師会

『柔道整復師』この会報を読んでいるケアマネ協 会会員の皆様には、あまり聞いたことのない馴染み の薄い業界に思えますでしょう。

自動車を走らせていて、町のあちこちで見かける 『接骨院』『整骨院』の看板を掲げているのが、私た ち柔道整復師です。

当然、協会会員の皆様は福祉関係の職能団体で はない私たちの業界の会員たちとは、仕事を通して のお付き合いも、少ないと思います。我々の会員に も介護保険の世界は、専門性の高い分野という事 で、関わることを敬遠する会員が多いのも事実で す。それでも数名の会員は、ディサービスの施設を 運営していますし、10数名の会員が、ケアマネ試験 に合格しています。そして、10名弱の会員が居宅支 援事業所を開設していましたが、今年の春に最後 の会員が、居宅支援事業から撤退して、今現在、居 宅支援事業所を開設している会員は、誰もいなくな りました。閉鎖した理由を聞いてみますと、一番多 かったのは本業の接骨院業務との併設で、休む間 のない事で体力や、気力の疲労感が大きかった。ま た、利用者家族との人間関係に疲れたというのもあ りました。業務内容が煩雑で、時間がかかり過ぎる のに、点数が低すぎて採算が取れにくいという意 見もありました。

私たちの業務には、高齢 者の受診者が多いという事 もあり、県内のあちこちの 市町村で行政との折衝を行 いサテライト方式や、セン



ター方式で『機能訓練指導』や『予防介護教室』を している会員もいます。また、私たちの本業である 接骨院業務では、患者さんの治療をすることで、普 段は服の中に隠れて見えにくい部位での、虐待を疑 わせるような発赤や内出血を見つけることもありま す。そんな時は、患者さんの話をよく聞いて、翌日か らも注意して部位を観察して、やっぱり虐待が疑わ れるようなら、近くの地域包括支援センターに情報 の提供をあげて欲しいと、会員には提案はしてある のですが、どこまで提供があるのか不明です。地域 包括支援センターとかは、付き合いがないとか、面 倒くさいとかの理由で、そのまま済ませてしまって いるのが実情かもしれません。

この会報に目を通された包括支援センターの職 員のみなさまには、我々業界との敷居を、低くして いただき近所の接骨院を訪問して、そんな情報の 提供をお願いしてもらうというのも一考かと思いま す。

(公社)山形県柔道整復師会所属 青木和弘

各専門職から Professional Comment 言語聴覚士(ST)の立場から

意思疎通支援から始める自立支援

高齢者の自立した生活を維持するには、「社会参加」「口腔・嚥下」「栄養」「運動」が玉を突くように順次低下することを防ぐことが重要だと認識しています。

高齢者の社会参加を阻害する要因の1つとして、 難聴があります。70歳以上で約5割、80歳以上では 7割以上の方が難聴を抱えていると言われていま す。

私の勤務先でも「運動指導者の声が聞こえない」「他者との会話ができない」等を理由にサービス利用を中止された方がいました。難聴によるストレスで社会参加から遠ざかる高齢者は少なくありません。また、難聴が認知症の発症及び重度化の危険因子であることは、認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン)にも明記されているところです。『聞こえ』の状態を確認し、適切に支援することは認知症予防にもつながります。補聴器は有効な対策の1つですが、話し方や伝え方の工夫といった合理的配慮によってもストレスの軽減は図れます。

合理的配慮の1つに、口元をハッキリみせて話す、ことがあります。口の動きから相手の会話内容を読み取る「読話」により、聞き取りの補完が期待

されます。感染予防等でマスクをする機会も増えて きましたが、相手の口元がみえないと難聴者は大 変です。

全国には聴覚障害者32万人、視覚障害者32万人いると言われています。そして、脳の損傷により「話す」「聴く」「読む」「書く」ことが難しくなる失語症者は、最大50万人いると推計されています。言語聴覚士会では、失語症者及びその家族を支援するため、県内各地に失語症者向けの通いの場を設置し、徐々に失語症者の意思疎通支援者養成に取り組んでいきます。

今回、移動手段や運動の問題に限らず、意思疎通の問題も社会参加に大きく影響することを再確認していただければ幸いです。引き続き、介護支援専門員の皆様と高齢者の自立支援に貢献していきたいと考えています。

山形県言語聴覚士会会長 荒井晋一



編集後記

秋と言えば、読書の秋·スポーツの秋そして食 欲の秋です。

秋が旬のおいしものがテーブルに並びます。 誘惑に負け、秋の夜長おいしものに、手を伸ばす と次健康診断の数値が凄いことになってしまい ます。意思が弱く、医師のお世話になりました。

消費税増税に伴う、介護報酬改定など慌ただしい日々が続いています。

今号より新メンバーにて編集しております。よ りよい通信となるように頑張ります。

(T)

一般社団法人 山形県介護支援専門員協会会誌 ケアマネ通信 やまがた No.31

発行日/令和元年10月 発行人/佐藤 裕邦

発行所/一般社団法人 山形県介護支援専門員協会 〒990-0021 山形市小白川町2-3-31

山形県総合社会福祉センター内

TEL 023-633-1098 FAX 023-615-6521 E-mail: yacm@pony.ocn.ne.jp

印刷·製本/田宮印刷株式会社

〒990-2251 山形市立谷川三丁目 1410-1 TEL 023-686-6111 FAX 023-686-6114